

平成 24 年度 シラバス	学年・期間・区分	5 年次 ・ 前期 ・ B 群	
	対象学科・専攻	土木工学科	
土 木 史 (Historical Discussions on Civil Engineering)	担当教員	吉原 進 (Yoshihara, Susumu)	
	教員室	都市環境デザイン工学科棟 2 階 非常勤講師控室 (TEL : 42-9125) 自宅 (Tel. & Fax. 083-952-0925)	
	E-Mail	sf.yoshi@heart.ocn.ne.jp	
教育形態/単位の種別/単位数	講義 / 学修単位 [講義 I] / 1 単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100 分) + 自学自習 (80 分)] × 15 回		
<p>[本科目の目標] 土木が自然とどのように関わりながら技術開発を行い、人間社会に役立ってきたかを種々の資料を用いて幅広い観点から考える。過去の人々が生きるためにどのような努力をしてきたか、いかなる課題を積み残してきたか、それを将来へ引き継ぐために何に注意すべきかを考える。この講義では、時間を追って出来事を羅列することはしない。</p> <p>[本科目の位置付け] これまでに学んだ土木に関連する種々の専門科目が、実際の社会でなぜ必要であるか、それらをどのような場で実践するか、歴史性を考えつつ総合的に検討することによって、今後の土木事業の意義を考え、あるべき姿を構想する能力を培う。</p> <p>[学習上の留意点] 教科書やプリントによる古典を読み、スライド画像を鑑賞し、また講義を聴いて、よく咀嚼し、考え、批判し、それを文章で表現すること。特に、古典は語義や文法にとらわれず、時代性のみならず、今日性を考えながら内容の把握に努めること。なお、各種資料の閲覧やレポート提出にインターネットを使用する。なお、本科目は学修単位 [講義 I] 科目であるため、指示内容について 80 分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。</p>			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1 講義内容の説明 テキスト (序論)	2	<input type="checkbox"/> 土木の意義、歴史に学ぶ必要性、未曾有の事態への対応を理解し、説明できる。	テキスト掲載の写真に目を通す
2 テキスト (2 章 自然・環境) 古典教材 (淮南子, 今昔物語, 短歌)	6	<input type="checkbox"/> 日本国土の脆弱性、災害への備え方を理解し、説明できる。	テキスト 2 章を熟読
3 環境問題と土木の関わり	4	<input type="checkbox"/> 土木と文明、伝統工法の意義、災害の諸相を理解し、説明できる。	最近の災害について調べる
--- 前期中間試験 ---		授業項目 1~3 について達成度を確認する。	
4 リサイクル煉瓦アーチ橋および 既設煉瓦アーチ橋見学 (栗野 駅周辺)	4	<input type="checkbox"/> 伝統工法の現代的意義、循環社会への挑戦を理解する。	「甲突川五石橋に学ぶ」他の配 付資料を熟読
5 テキスト (3 章 人間・社会) 古典 (聖徳太子憲法, 日本国憲 法, ドイツ基本法, ワイマール 憲法)	4	<input type="checkbox"/> 人間のあり方、社会のあり方、社会の秩序、民主主義について理解を深め、素養を養う。	テキスト 3 章熟読
6 テキスト (4 章 景気・経済) 古典 (古事記, 二宮尊徳, 上杉 鷹山, 内村鑑三・代表的日本 人)	4	<input type="checkbox"/> 経済を支える意義、国づくりの意義、ものづくりの意義を理解する。 <input type="checkbox"/> 国づくりに関して理解を深める。	テキスト 4 章熟読
7 テキスト (5 章 科学・技術) 古典教材 (ゲーテ・ファウスト, 原龍太, 芳川顕正・本末論)	4	<input type="checkbox"/> 科学技術の役割を理解し、将来に適用できる素養を養う。 <input type="checkbox"/> 国づくり、都市改造に関して理解を深める。	テキスト 5 章熟読
>>> 次頁へつづく >>>			

